

## タイトル「足の匂い責め編」

(蝉の鳴き声)

1 1番 「あつっくくく、蝉さんの声耳に響くくくく」

2 「蝉は元気だなくこの時期」

(バスケットボールのドリブルの効果音)

3 「しおりも負けてられないよ、スリーポイントシュククククト！」

(バスケットボールのシュートを放ってゴールに入る効果音)

4 「よし決まった、しおり今日も絶好調、にひひ！」

5 「そろそろいきますか、

豚候補が待つ部屋へレッツゴー、るんるるくくん♪」

(部屋に入る効果音)

6 2番 「お邪魔しまくくす、あつ、こんにちわ」

7 「あの？おじさんなの？しおりのマゾ豚志願者って」

8 「そっか、記念すべき一人目がおじさんか、しおりのペットになりたい人ってホームページで募集かけたらサーバーダウンしちゃったんだよ」

9 「でしゅしおり男にすごい人気あつてくくく、特にく……」

1 0 3 番囁き 「おじさんみたいな変態にはね、ふふふ」

1 1 3 番 「びくんって体震わせてどうかした？おじさん、  
お耳弱いのかな？もしかして」

1 2 「しおりね豚の気持ちいとこ発見したらねっとりと責めるのが得意なの」  
1 3 「だから早くも弱点みつけて感じてかな、ねっ、マゾ豚君、ふふ」

1 4 「暑いよねー今日、結構体蒸れ蒸れ系かもー、  
色んなとこ汗ばんでるーやだー」

1 5 「おじさんは女の子のくさーい体好きなんだもんね、変態だね」

1 6 「あっそうそうしおりとおじさんの関係を説明するとね、  
おじさんはしおりのペット」

1 7 「ご主人様に指示を貰えば指示通りに動く、守れますか？」  
1 8 「んふふ、緊張で言葉が出てこないか、  
でもこうすれば体の緊張もほぐれるよ」

1 9 「（息吹きかけ）ふふふ……」

2 0 「しおりの息気持ち？んふふ」

2 1 「ほらおじさんリラックス、肩の力を抜いて、手ぶらぶらーってさせて」  
2 2 「うんいい感じ、おちんぽももっとリラックス」

2 3 「もっと勃起できるでしょそれ、しおりに見せてみてよ」

2 4 「ばっきばきに勃起させたらどのくらい大きくなるのか、ほら早く」

2 5 「服着てる子は着ている物ぜーんぶ脱いでね、

全裸でちんぽの大きさ全開にして」

「あはは、すご〜い」

「臭そうなおちんちん、しおりのだ〜い好きなおちんぽだ〜」

「もう少し大きくしてみよっか、

おじさんはなんにもなくていいよ、しおりに任せて」

「（息吹きかけ）ふ〜〜〜……」

3 番 囁き 「（息吹きかけ）ふ〜〜〜……ちんぽ大きくして！ほら気合い入れて！

ふ〜〜、んふふふ」

「固くてあつ〜い、

しおりが声でいじめたらすぐはあはあしていきそう、

マゾ射精……してみる？」

3 番 「んふ、じゃあほんのあいさつ代わりじゃないけどしおりの脇で射精させ

てあげよっかな」

「こーやって腕を上げて……ほら見える？」

「しおりの腋、おじさんのだ〜い好きな女子の腋だよ」

「なんでこんなに汗かいてると思う？」

「しおりおじさんと会うまでバスケットボールで遊んだの」

「にひひひひ、ほら出しなよ臭いザーメン、腋おかずにしていいからさ」

「むわあ〜ってなってる腋で射精しな、ドピュドピュ〜って」

「湯気でもわ〜ってしてる腋おじさんのおかずにしていいんだよ」

「ほら腋でシコシコして、シコシコ、シコシコ、シコシコ、シコシコ」

4 1 「ほらもうちょっと近くに来ていいよ……」

シコシコ、シコシコ、シコシコ、シコシコ」

4 2 「ふふ、しおりの必殺腋まんこ……、あはははは」

4 3 「腋に直接顔をずめるの気持ちいですかおじさん、これで大好きな脇の匂いでおしっこ漏らせるよ」

4 4 「たぶんおじさんすぐに天国いっちゃうと思うよ、しおりにはわかるの、おじさんのちんぽを見ればね」

4 5 「もう我慢できない……、いく……って心の声が聴こえるよ」  
4 6 「いいよ、すぐにいかせたげる」

4 7 「ねーおじさん、しおりの腋の匂いで……」

3 番囁き 「いけ、いけ、いけ、出せ、出せ、出せ」

4 8 「いく、いく、いく、いく、漏らせ、漏らせ、漏らせ」

4 9 「あそこが濡れる、あそこがぐちよぐちよになる、

絶頂を迎える、もうすぐ出る」

5 1 「カウパー汁でぐっしより、おちんぽ濡れ濡れ、

臭いおちんぽがもっと臭くなる、いく寸前」

5 2 「腋まんこ、腋の汗、蒸れた腋、むわ……って湯気の見える腋、その匂いでいっちゃうの」

5 3 「マゾ、マゾ豚、おじさんはしおりの豚、おじさんのちんぽはしおりのおもちや、

マゾ射精してご主人様に褒美を貰いなさい」

5 4 「10秒カウントするから10秒に合わせて出せ、

しおりの命令、おじさんは逆らわない、いや逆らえない」

「しおりの声、数字がおじさんの耳を支配する」

「1、2、3、4、5、6、7、8、9、いけ！！！」

2番 「やん！？きゃっ！？あはは、おじさん大丈夫？

足腰ぶるぶる震えてるよ」

「おじさん偉いね、こんな一杯精液出せて、匂いフェチの鏡だ…ねっ」

「それと、腋でアヘアヘしたかな、

もししてたらくさくさい足のご褒美上げちゃう」

「どおかなどおかなく…」

「あはは、えっ、ちょっとやりすぎちゃったかな？」

「舌びろくってだらしないよ、

たくくアヘアヘすぐするもんなく目を離すと」

3番 「うんうん怒ってるんじゃないよ、むしろく…」

3番 囁き 「よくできました、んふふふ」

「ぶるってよくするね今日、お耳さん弱いみたいだから仕方ないけど」

「（息吹きかけ）ふくく…」

「くら何背筋ぞくぞくしてるんだ、ダメだぞ」

「えへへ、耳は後で犯してあげるね、おくじくさくん」

「最初はスニーカーを脱いで、よいしょっ、んいしょっ、

次にニーソックスを脱ぎ脱ぎするっと、

んゝゝゝ、よいしょゝゝゝ、こっちの足もよいしょ」

「えへへ、脱ぎたてニーソに脱ぎたてスニーカー、臭いよゝゝゝこれ」

「ん？今唾飲み込んだ？

まさか、えむちんぽ無意識に反応しちゃったのかな、

精液ドピュドピュしたばかりなのに元気だね」

「だけどさっきみたいないな大きいおちんぽ見たいなくしおり、  
手伝ってあげるよしおりが」

「すっごい簡単なのしおりの指を使えば」

「この人差し指でねおじさんのおちんぽを持ち上げてゝゝゝ  
お腹にくっ付ける」

「この状態をキープしたまま……」

「しおりのおちんぽ、しおりのおちんちん、だゝゝゝい好きなおちんぽ♡」

「小さくしちゃダメ、ダメ、ダメ、大きいおちんぽを維持して、

マゾちんぽは常に勃起、マゾちんぽはしおり様専用」

「（息吹きかけ）最後に耳に優しく……ふゝゝゝ……」

「ふふ、ほゝら、もう勃起したまんま、おじさんはしおり様の虜、

しおりのテクでおじさんのおちんぽは管理されちゃうの」

「ほらしおりが手に持った足のアイテムで失神アへ顔いってみる？」

「えへへ、素直でいいよおじさん」

「ニーソックスの中をしゝゝゝっかり拡げてあげてゝゝゝ、

おじさんの鼻にえい！」

「ダメだよまだ吸っちゃ、しおりに指示されたら吸うの、わかった？」

「はいニーソックスの匂い吸って……臭いけど頑張って……」

素足を包んでいたニーソの匂い吸って……

くっさ……いニーソックスの匂い吸って……」

「くさ……いニーソの中吸って……酸っぱくさ……い匂い吸って  
……脱ぎたてニーソの匂い思いっきり吸って……」

「もっと鼻の中に臭いニーソの匂い入れてあげて……」

くっさ……いニーソの匂い吸って……

ニーソックスの匂い吸いまくって……」

「…んふふ、トロ～ンってしてきたねお顔、

さあ今度はスニーカーの匂い吸い込もうねおじさん」

「押し当ててあげる、ほ……ら、にひひ……」

「はいこっちも脱いだばっかのスニーカーですよ……」

くっさ……いスニーカーの匂い吸って……

す……って臭い匂い吸い込んで……」

「体の中臭くできるように……」

た……つぶリスニーカーの匂いを吸って……

吸って……くさ……い匂い吸って……」

「はいもっと吸って……」

ゝゝ吸いまくってゝゝゝくさゝいくさゝゝいスニーカー吸ってゝゝ

「あはは、わりと頑張るんだね、

鼻水垂らしてアへ顔になつてるけどおちんぽピュウウウつはまだしてないみたいだし」

「めちやめちやくさささい足でピュュュピュュュっていかせて欲しいのかな？」

「おじさん、臭い足って……これの事？」

「しおりのす・あ・し、酸っぱくさささい足の裏」

「充分すぎるんだけどな、スニーカーもニーソックスも」

「じゃあさ仰向けになってよ、リラックスして寝る感じで」

「……どおしたのおじさん息はあはあさせて、

「年下のしおりに何か怖い事されちゃうよって怯えてるの？」

「仰向けの指示が出たらおちんぽぐぐぐぐぐってかなり大きくなったよ」

「鋭いんだねおじさん、未来を予知できる予知能力者になれるよ」

「しおりの足をねおじさんの顔に乗せて本物の酸っぱくさくさい匂い感じさせてあげようと思って」

「うんうんさっきまでののが偽物って言うてるんじゃないよ、

「いゝい？おじさんの顔にくっさゝゝゝゝゝい足の裏乗せちゃうよ」





1 1 8 「おじさんには絶対我慢できないよ、

しおりの足超酸っぱいから」

1 1 9 「M男君が鳴いて喜ぶ足の匂い、いっっぱい堪能させてあげる」

1 2 0 「はいくさくさい足の裏の匂い吸って……酸っぱい匂い吸って  
くさ……」

1 2 1 「くっさくさいでしょ？くっさくさい匂いでしょ？……」  
1 2 2 「はいくさくさい匂い吸って……汗でべたついてる足の匂いちゃんと吸って……吸い込んで……汗で湿ってる足の裏の匂い吸って……」

1 2 3 「ほらしおりの足の匂い鼻の中から体に送ってあげて……  
くさくさいくさくさいしおりの足の匂い吸って……吸い込んで……」

1 2 4 「腰びくんびくん動いちゃうね……、  
もう少しで精液ドピュドピュ吐き出せるからね……頑張ろうね……」

1 2 5 「は……い、酸っぱい素足の匂い吸って……  
酸っぱくさくさい匂い吸って……くっさくさい匂い吸い込んで……」

1 2 6 「酸っぱい酸っぱい酸っぱい酸っぱい酸っぱい匂い吸って……  
酸っぱい……」

1 2 7 「蒸れつつつつつつ蒸れの足の裏の匂いで失神して……」



1 4 1 「くささるい匂いでマゾいき、マゾ絶頂、マゾのいくとこ見せて」

1 4 2 「くささるい、酸っぱさるい、くささるい、酸っぱくささるい」

1 4 3 「おじさんのだるい好きな女の子の足、

その匂いでマゾ射精、マゾ射精、マゾ射精する」

1 4 4 「くっささるい足の裏の匂い、臭すぎる足の匂い」

1 4 5 「臭い臭い臭い、くささるい、くささるい」

1 4 6 「じゅわさるい、じゅわさるい」

汗が出てくる、汗が足の裏からどんどん出てくるね、ごめんね足臭すぎて」

1 4 7 「おじさんは酸っぱい足の裏の女の子は嫌いですか？

酸っぱくささるい素足の女の子は嫌いですか？」

1 4 8 「ふふ、謝るから許して」

1 4 9 「ごめんねくっささるい足の匂いさせて、

ごめんねおじさん、ゆるさるいして」

1 5 0 「足の匂いでシコシコしてる？」

シコシコいい音させてますか？んふふふふ」

1 5 1 「汗いつもかいてるんだよしおり、汗でいっっっつも素足べたべた、

だから足の裏の匂いでおじさんはこんなにも気持ちよくなれるの、わかる？

んんん？」

1 5 2 「んふふ、くささるい、くささるい、くささるい、くささるい、

くっささるい、くっささるい、くっささるい、くっささるい」

1 5 3 「体の中酸っぱくできた？酸っぱいしおりの足の匂いで充満できましたか？

変態おじさん、エッチなおじさん、匂いフェチの変態、

ねっ？おっじさん♡」

1 5 4 「10秒カウントでいかせてあげる、ただしルールがあるよ」

1 5 5 「10っていう時に射精許可が聴こえたら精液出してよし」

1 5 6 「10と聴こえたらザーメンドッピュンはおあずけ、

その場合おちんぽのしごきを止めてはダメ、続ける事」

1 5 7 「集中して聴いてねおっじさん、間違って射精した場合は音声全部聞き終えた

後にもう一度最初から聴き直し射精地獄、それがしおりのペットの生き方」

1 5 8 「おっさんの人生はしおりに管理されてるの、

もちろん……おっさんのおちんぽはしおりの物だよ、ふふふ」

1 5 9 「じゃあいくよ……、せ……の」

1 6 0 「1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、えへへ、1、2、3、4、

5、6、7、8、9、10。」

1 6 1 「1、2、3、4、5、6、7、8、9、出せ！」

1 6 2 1番 「やんっ！？あん！？」

1 6 3 「……あはは、あはははは、

おっさんす……い、マゾ射精いった……あはは」

1 6 4 「あわわ……、精液止まらな……い、しおりの足の裏酸っぱかったよ  
ね……、ごめんね……」

165

「今度足の匂い嗅がせる時はもろろっとくさろろい匂い嗅がせてあげるからねろあははは」

166

「うろなんかこの部屋イカみたいな匂いするろおじさん精子出しすぎ、イカ臭いよもろろ」

167

「好きじゃないよろこんな臭い匂い、調子に乗るなろろ」

168

「ふふ、ザーメンどんどん出てくる、しおりがもっとお漏らしさせてあげるよ」

169

「おじさんの顔にくっさろろい匂いで張り付いてるしおりの足の裏、上上げて息させてあげる、はい」

170

「ぷはあろろっだってお魚さんみたい、かわいいろおじさん。苦しかったよねろずっと息しずらくて、ごめんねろろ」

171

「（顔に足の裏をまた乗せる）  
なろろんてね、ほろろ二度目の臭い足ろろ！！！！」

172

「あはは、あはははは、  
部屋の上の壁まで届きそうなくらい精液。ピュろろっつて、ピュろろっつて飛んだね」

173

「ほら学校に良くある水道水、あれを飲むために力入れて捻るとぶわあろって水が溢れて飛ぶ、それと似てたね今のお漏らし」

174

「そんなに臭かった？しおりの臭い足」

1 7 5 「臭い匂い責めが終わったと思ってリラックスしているとこにきつすぎる足の匂い」

1 7 6 「誰でもおじさんみたいにザーメン出ちゃうよ、男の子は女の子の足でからかわれるの大好きだもん」

1 7 7 「あゝれゝ体うねらせてるねゝゝゝ、もう一回今のリピートして欲しいのかなゝ？」

1 7 8 「もうゝしょうがない変態さんだなゝ」

1 7 9 「足を顔から離してゝゝゝ……んふふ、はあはあしてる、はい問題です」

1 8 0 「しおりの足は臭いでしょうか？酸っぱいでしょうか？」

1 8 1 「問題に間違えたら顔目掛けて一気に足の裏降ろすからねゝ」

1 8 2 「はゝいどっちですかゝ？あはは」

1 8 3 「(でゝすの掛け声で顔に足を乗せる)

えゝ？足臭い？あはは、ぶぶゝゝゝ両方とも正解でゝゝゝす、あはははは」

1 8 4 「臭い？臭い？臭いですかゝゝゝ？あはは」

1 8 5 「正解でゝすの掛け声でおじさんの顔に一気に足降ろしたから！」

1 8 6 「どのタイミングで酸っぱい足の裏乗せたか教えて欲しい変態君にわかりやすい解説ゝゝゝあはは」

1 8 7 「てかおじさんわざと間違えたでしょ？

しおりの足の裏の匂い嗅ぎたいから！」

1 8 8 「もうゝロリコンだなゝおじさんは」

189 「ほらおじさん、さっきしおりが脱いだニーソックス、

これ普段結構使用してるやつなの」

190 「1週間くらい履いてたよ今日の為に、だから汚れてるでしょ匂いも臭いし」

191 「しおりんち洗濯機壊れてて直るまで洗濯できないの、

おじさんなら洗濯できるでしょこれ」

192 「あはは、なうに言っちゃってんの、おじさんの家まで帰って洗濯してたら

このニーソいつ手元に戻ってくるかわかんないじゃん」

193 「お口使いなよ…おじさんの口の中で洗濯して、勿論いいよねおじさん」

194 「えへへ、じゃあお口おおきくあけてくださるかい、あううん！」

195 「…ぽいっと、ふふ、人間洗濯機さん2時間は口の中でかき回してね。

2時間立ったら取りにくるから！」

196 「洗濯しながらおちんぽピューピュー、ピューピューってしてもいいよ」

197 「しおりは洗濯さえちゃんとやって貰えればいいから」

198 「それじゃ二時間後にまたねう洗濯機さん、あはははは」



